

科目成績GPを用いた 卒業時コンピテンシー評価の試み

○伏谷建造¹ 宮本修² 栗林太³ 和田秀穂⁴ 森谷卓也⁵
砂田芳秀⁶

川崎医科大学 1 IR室、2 生理学、3 生化学、4 血液内科学、
5 病理学、6 神経内科学

かわらぬ思い、このさきも

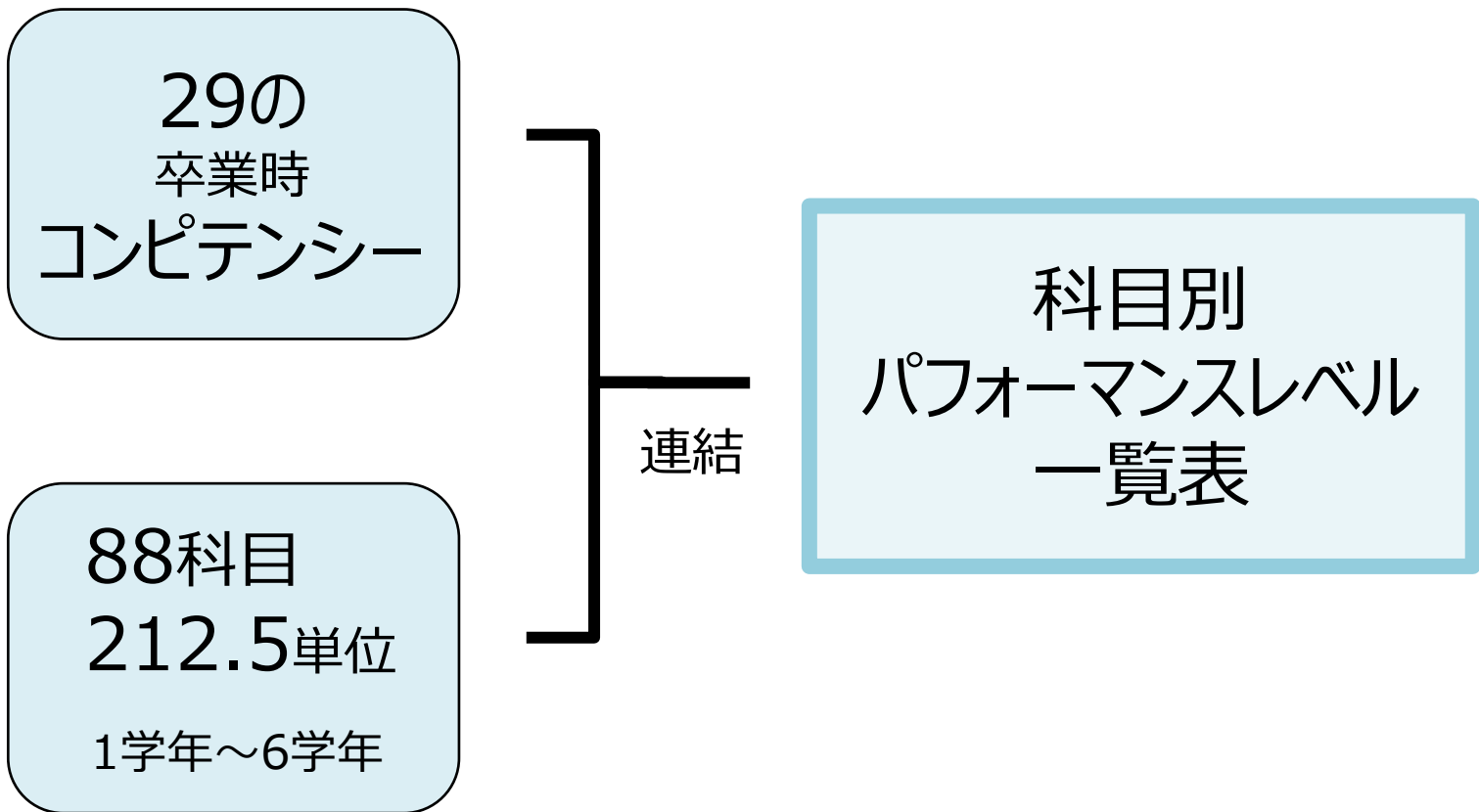
日本医学教育学会大会

COI開示

筆頭演者名：伏谷 建造

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

2018年度より 成果基盤型の教育体系に移行



科目別フォーマンスレベル一覧表

GP 単位数

科目

GPA

卒業時コンピテンシー

1. 個人目標を設定し、自身の学習や社会生活に貢献することができる。

2. 周囲に高い社会貢献ができる。

3. 指導者について感謝し、それに沿って行動できる。

4. 内閣府や産業界の期待を、自身の身上に結びつけることができる。

5. 多言語および国際言語の高度な知識、技能である。

6. 心身ともに健康に育つ。

7. 高学・新卒の資格に適合し、高度な意思疎通をすることができる。

8. 国際コミュニケーション能力を有し、高度な人間関係を築くことができる。

9. 医療・福祉と協働性を持って、他人と関与することができる。

10. 自身の意思を明確し、適切な言葉を用いて意思を伝えることができる。

11. 適切な態度をもち、患者や病室に安全なケアを提供することができる。

12. 人々の生活の主要な領域と健康を改善することができる。

13. 金銭に裏づけられた高品質な看護活動、高度な知識や技能を効果的に活用することができる。

14. 看護の臨床状況、学習方法や看護方法を改善することができる。

15. 臨床から看護・健康・社会・経済・環境への影響と、自己の看護実践の改善を導くことができる。

16. 高卒の専門看護職を専門に活躍できる。

17. 成人及び小児の看護を専門に実施できる。

18. 看護職に基づく看護職を認識できる。

19. 高卒の看護職を策定できる。

20. 高卒の看護を専門に実践し、Evidence-based practice(EBP)として実践できる。

21. Problem oriented system(POS)の命名や説明、Problem oriented method record(POMR)に基づく患者の看護実践が可能なこと。

22. 臨床現場の考えを整理し、patient safetyを保障できる。

1. 医療・福祉・福祉の現状を知り、そのための学習に参画できる。

2. 高卒看護と看護職に深く関与することができる。

3. 地域医療の現状を知り、プライマリケアを認識できる。

4. 高卒看護の発展について認識し、高卒看護に積極的に参画できる。

1. 高卒看護の基礎となる専門知識や専攻方法を理解することができる。

2. 高卒看護実践分野の知識や専門知識を高めることができる。

3. 看護実践の中心の学習方法を理解することができる。

間接評価（学生の自己評価）
2019年4月実施 別の機会

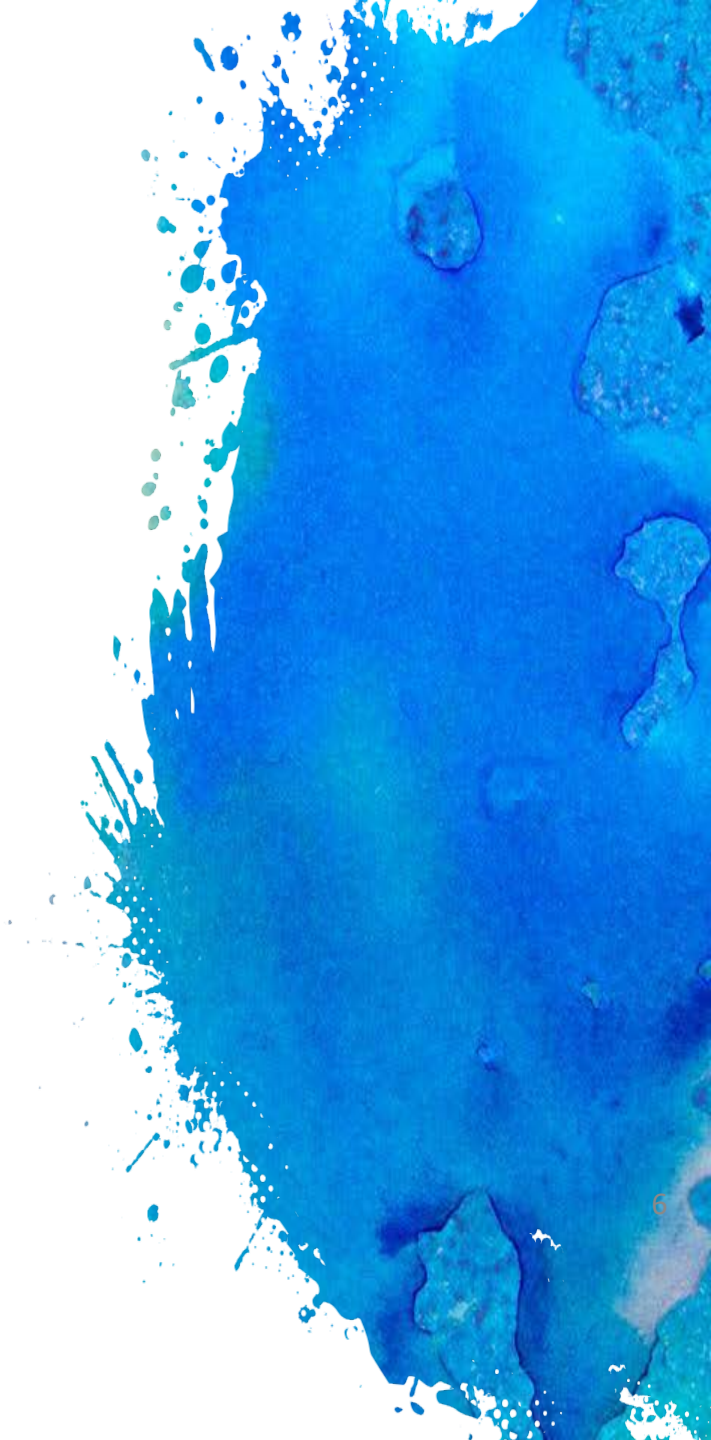
GPやGPAによる科目評価のみで

コンピテンシーは評価されず



コンピテンシーの達成度を
科目のGPで
客観的に評価する試み

考え方・方法



任意の対象区間について (科目数 n)

GP 単位数

科目

科目のGPベクトル n行1列 (sGP_j)

単位数に関する $m \times n$ の行列 (t_{ij})

$$cGP_i = \frac{\sum_{j=1}^n t_{ij} \times sGP_j}{\sum_{j=1}^n t_{ij}}$$



卒業時コンピュータリテラシー (m)

コンピュータリテラシーのGPベクトル m行1列 (cGP_i)

なお、

functional GPA

◆ GP

$$= (\text{評点} - 55) / 10 \quad \text{合格 (60点以上)}$$

$$= 0 \quad \text{不合格 (60点未満)}$$

◆ GPA

$$= \frac{(\text{科目のGP} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{単位数の総和}}$$

コンピテンス領域ごとの到達レベル

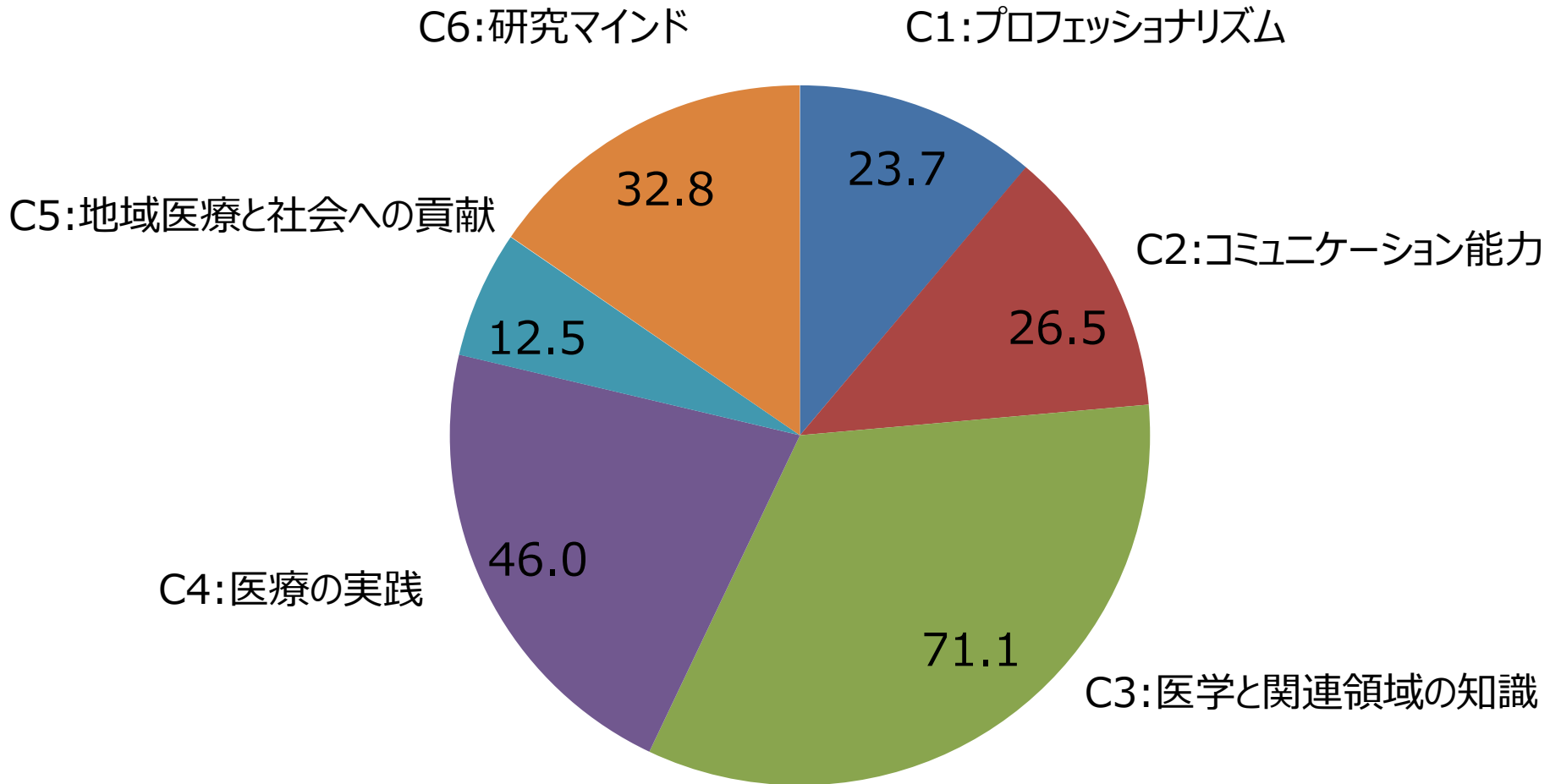
パフォーマンス レベル コンピテンス	Advanced	Applied	Basic	Basic		
	A	B	C	D	E	F
I. プロフェッショナリズム	診療の場で医師としての態度、習慣、価値観	医師としての態度、習慣、価値観を模擬的	基盤となる態度、習慣、価値観を示せるこ	基盤となる知識を示せることが単位認定の	修得の機会はあるが、単位認定に関係	修得の機会がない
<div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: 2em; font-weight: bold;"> 10 9 8 4 1 0 </div>						
II. コミュニケーション能力	実践できることが単位認定の要件である	実践できることが単位認定の要件である	知識修得・応用の態	知識修得・応用の態	基盤となる知識を示せることが単位認定の	修得の機会はあるが、単位認定に関係
III. 医学と関	診療の場で問題解決に知識を応用	診療の場で問題解決に知識を応用	知識修得・応用の態	知識修得・応用の態	基盤となる知識を示せることが単位認定の	修得の機会はあるが、単位認定に関係
IV. 医療						
V. グローバル化する社会および国際社会への貢献	認定の要件である	認定の要件である	ルを示せることが単位認定の要件である	ルを示せることが単位認定の要件である	が、単位認定に関係ない	
VI. 研究マインド	実践できることが単位認定の要件である	理解と計画立案が単位認定の要件である	計画された研究の基礎となる技術を示せることが単位認定の要件である	計画された研究の基礎となる技術を示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない

到達レベルを数値化し、
それをもとに、単位数を配分する

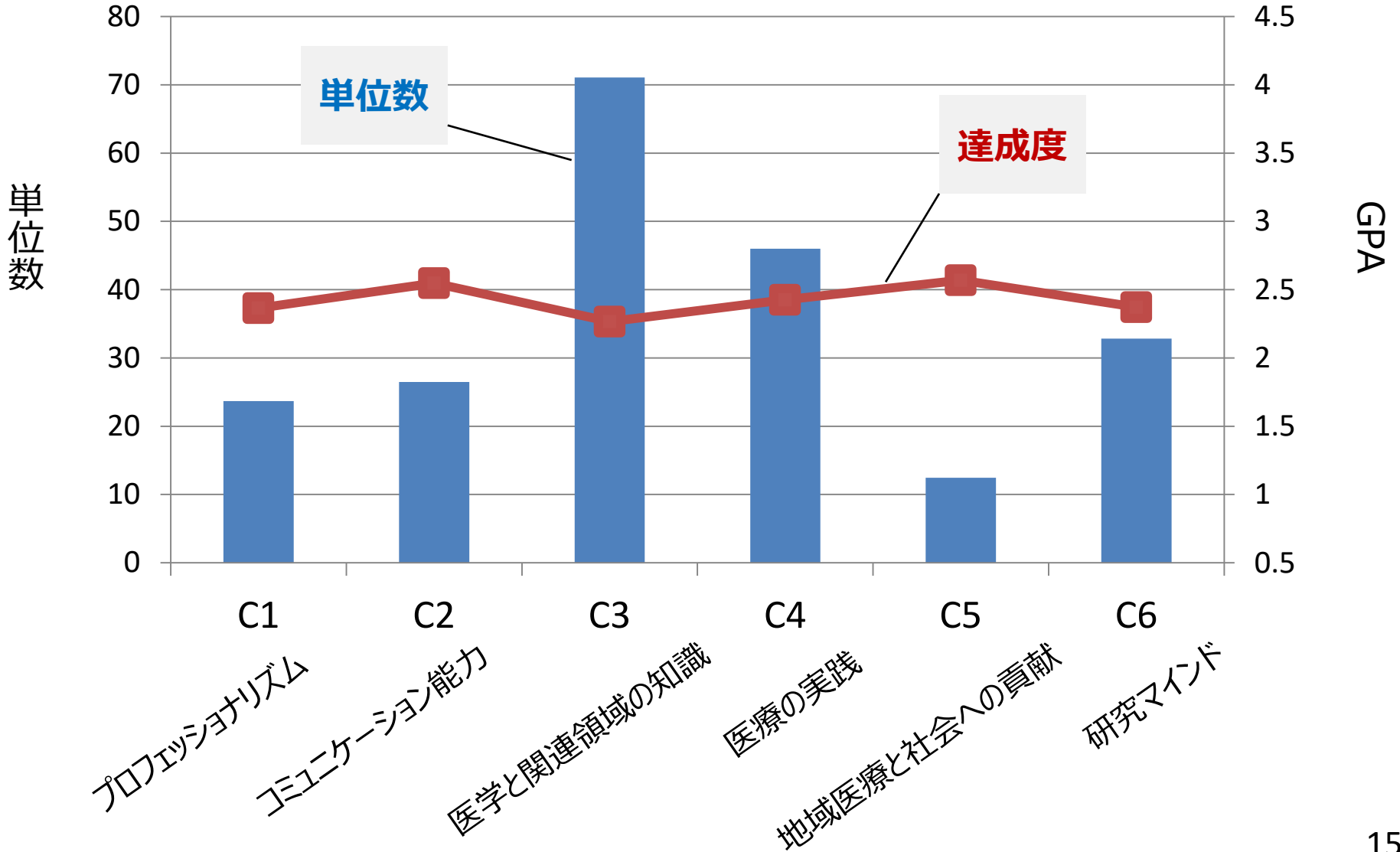
結果

6つのコンピテンスの配当単位数

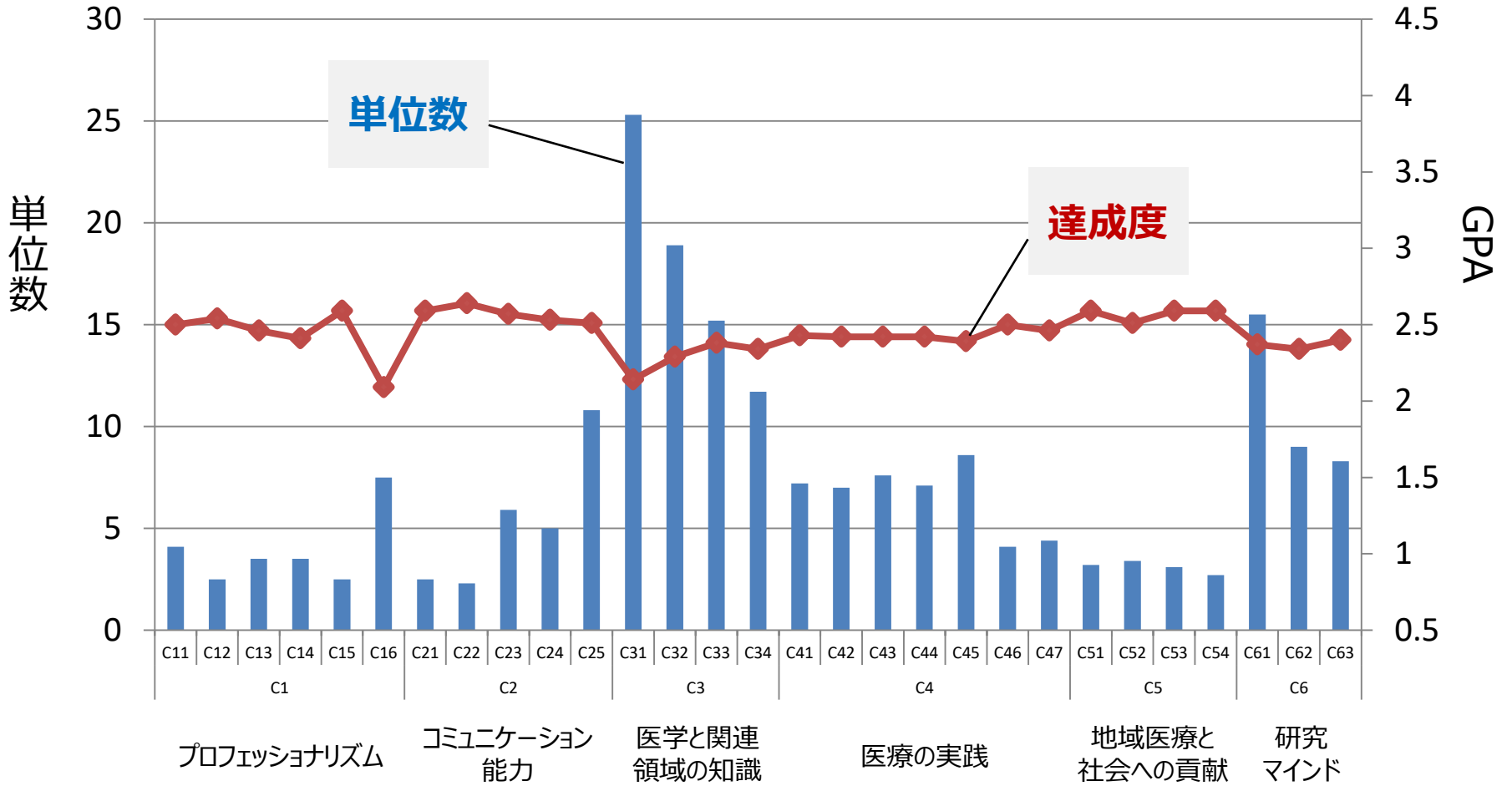
総単位数
212.5単位
(2018年度)



6つのコンピテンス 単位数と達成度 (GPA)

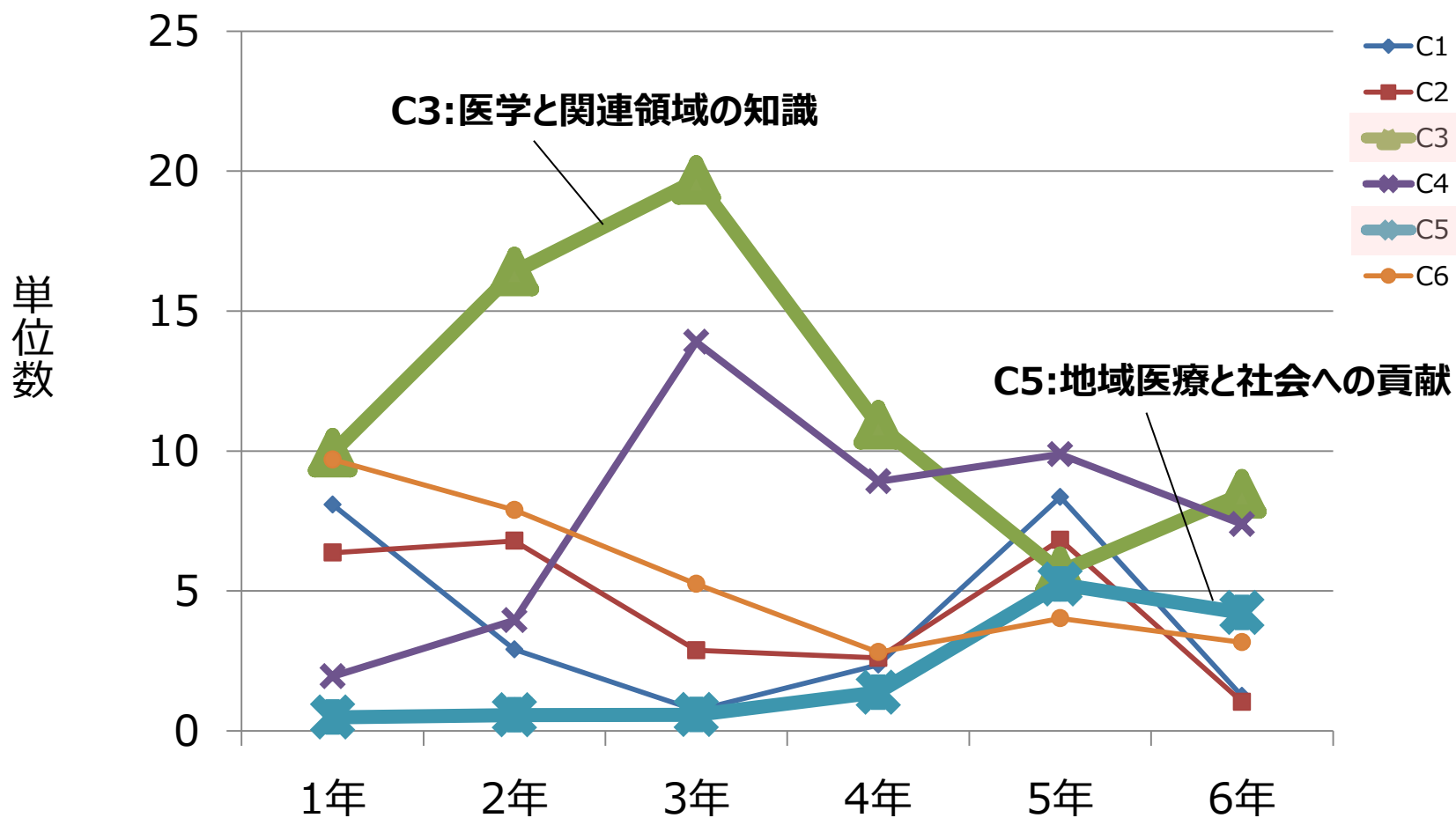


各コンピテンシー 単位数と達成度

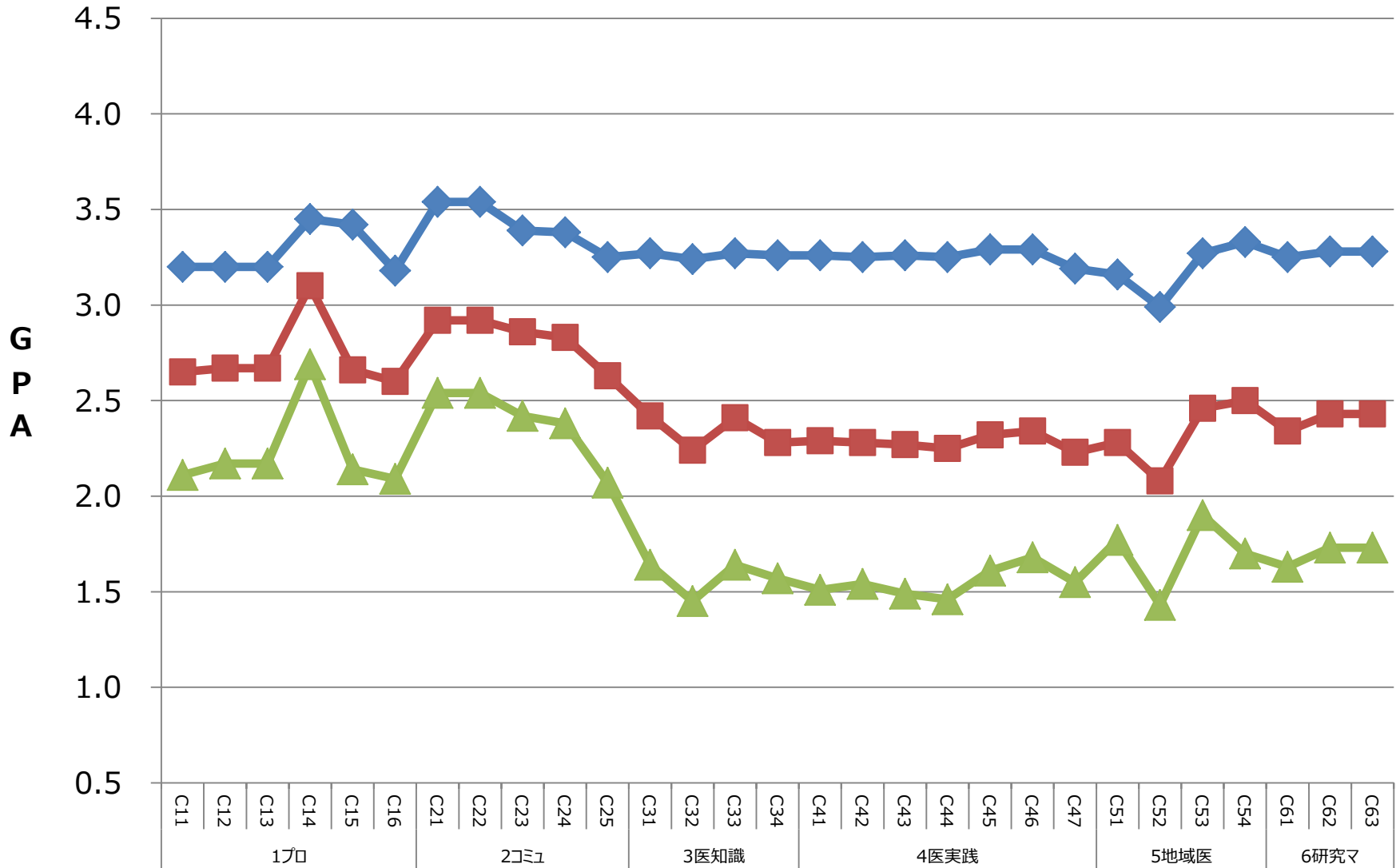


コンピテンス・コンピテンシー

コンピテンス配当単位数の学年への分配状況



GPAで示したコンピテンシー到達度 (学生群別)



以上の方法によって
コンピテンシーの配当単位数が分かれば

個人別、群別、学年別、科目別など
コンピテンシーの達成度や
カリキュラムの構成などを
詳細にプロファイルできる

今後は

○科目責任者が直接にコンピテンシーに単位数を配分

○科目成績（GP）の適切な評価

妥当な評価方法

コンピテンシーに配分した単位数を反映する評価

成績評価基準の共有化



コンピテンシーは
科目成績のGPを用いて
客観的に評価できる

ご清聴ありがとうございました

